

2026年7月10日 木村雅英

質問1【全般】

質問1-1 大事故を起こした東電が原発稼働することについて

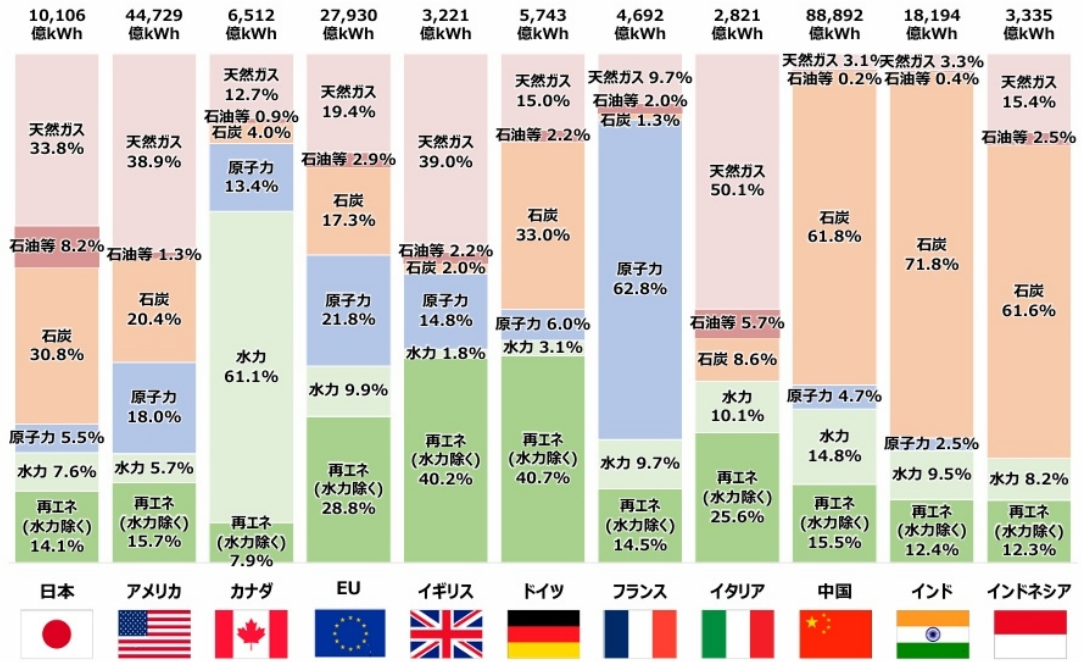
- (1) 福島第一原発事故後 15 年4カ月、今現在のイチエフの状態を確認させてください。
デブリなど放射性物質の推定残存量は何体で重量は780トンですか？
周辺地域への放射能汚染はどれくらいと推定していますか？
海洋放出(投棄)した総量は15万7千トン(7月1日現在)ですか？
「3つの誓い」は守られていますか？
- (2) 事故後にイチエフに入り後に国内で脳出血で50歳でなくなった方が「地震は現在を破壊した、津波は過去を破壊した、原発は未来を破壊した」のメモを残しました。東電はどう受けとめますか？
- (3) ロードマップの改訂もできない今のイチエフの状況を東電はどう見ているのですか？
この状態で、新たに柏崎刈羽を再稼働したことを東電はどう考えているのですか？

質問1-2 東電の自然エネルギー（再生可能エネルギー）の取組について

- (1) 再生可能エネルギーへの取組
第7次エネルギー基本計画では「再生可能エネルギーを主力電源として最大限導入」と定められています。3. 11事故後の東電の再生可能エネルギーへの取組の概要を確認させてください。あれだけの事故を起こしたのだから再エネに注力しようとの方針を東電はとらなかったのですか？
東電の再エネへの取組について前回に、総出力1000万kw保有、出資参画し稼働している発電所は34万kw、開発中案件が約265万Kmで合計設備容量299万kw、今後改めて検討し主力電源化を目指す、と回答されました。その後の計画を確認させてください。
- (2) 世界の電源構成
世界の電源構成は次です(2023年)。日本の再エネ(水力を除く)は、米・EU・英・独・伊・中国を下回っています。再エネの技術を持ち環境も良く3. 11事故を経験した日本が、他国と比べて再エネの伸びが小さいことをどう思いますか？

(参考) 各国の電源構成の比較

第55回総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会
(2024年5月15日) 資料1を抜粋



出典：IEA World Energy Balances（各国2022年の発電量）、総合エネルギー統計（2022年度確報）をもとに資源エネルギー庁作成

前回は「中国の再エネ設備容量、14.5 億 kW 突破 世界最大の供給体制を構築」

<https://www.chinapost.jp/news/renewable-energy-china-energy-policy>

を提示しましたが、東電の、蓄電技術と再エネ技術への取り組みを強く要望します。

(3) 出力制御の実績

前回、次の出力制御実績を示しました。

東京電力パワーグリッドHPエリア需給実績データ掲載先

https://www.tepco.co.jp/forecast/html/area_data-i.html

3月 1, 8, 21, 28, 29日

4月 5, 11, 12, 19, 25, 26日

5月 2, 3, 4, 5, 6, 9, 10, 16, 17, 23日 (一部東電で訂正)

例えば、5月10日の朝9時半～13時半は次で、12時前後には発電量の半分近くを出力制御しています。

時刻 太陽光発電実績 太陽光出力制御量

9:30	10109	4933		10:00	10623	5385		10:30	11164	5434		11:00	11233	5707
11:30	11540	5457		12:00	11909	4845		12:30	11575	4674		13:00	11399	4167
13:30	11797	2688												

単位[MW 平均]

5月24日以降は6月中から7月8日まで出力制御が記録されていません。梅雨で気温が低くなったからですか？ 何らかの出力制御の工夫をされたのですか？ 柏崎刈羽6号機の発電が止まったのですか？ それとも何らかの数値の操作をされた訳ではありませんか？ 確認させてください。

(4) 前回のご回答で「下げ調整力不足が見込まれたために(出力抑制が)実施されたと回答されました。その後何らかの改善がなされたのでしょうか？

(5) 一方、過去の出力制御の実績は、次の通り

公表された出力制御率;2024 年度実績→2025 年度・最新見通し→2026 年度・短期見通し

九州電力管内:4.8%→5.9%→6.9%と年ごとにほぼ 1 ポイント上昇

東北電力管内:1.3%→3.0%→4.0%

北海道電力管内:0.04%→0.3%→1.8%

(2026 年度・出力制御率の短期予測、九電管内は 6.9%に上昇 メガソーラービジネス plus:日経 BP)

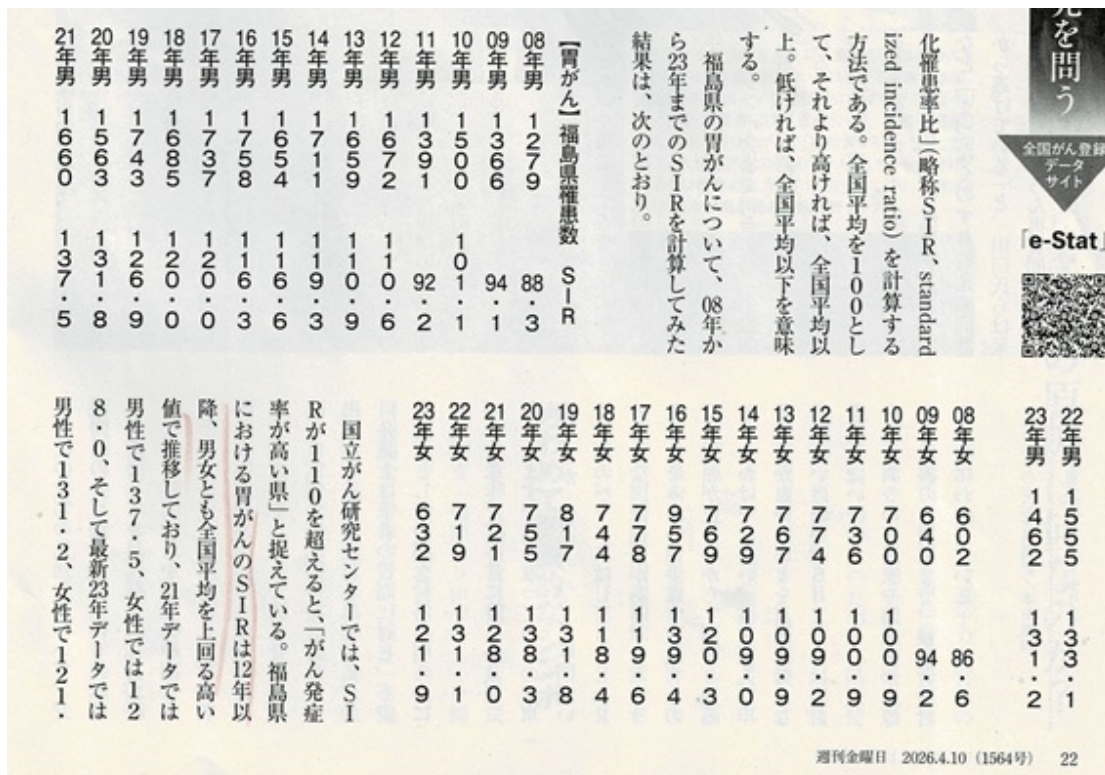
本年の東電の計画と実績を明示願います。

質問 1－3 放射性物質は拡散してはいけない～被曝と健康被害

(1) 放射線の影響と人の健康被害について

山中委員長の2025年9月10日発言(東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえますと、あれぐらい大きな原子力発電所の事故になっても、放射線の影響で何か健康被害を受けた方というのは、今のところ全くおられない。)に東電も同意を示されましたが、私は間違っていると思います。

例えば、明石昇二郎「無視され続ける疫学解析の警告～胃がん12年連続、胆のう・胆管がん男女で長期多発」(週刊金曜日4/10, P.22～P.29)を東電はどう受けとめているのですか？ 「全国がん登録」データに基づく主張に科学的・疫学的に反論できますか？ 科学的に回答願います。



質問1－4 放射性物質は拡散してはいけない～行き場が無い使用済み核燃料～

(1) 六ヶ所再処理施設の稼働

再処理施設の稼働の見込みが立っていません。4月の青森県知事の間接貯蔵施設への受け入れ拒否の記事について、東電は「日本原燃の再処理工場がしっかりと進捗するよう、オールジャパン体制で支援」と回答されました。原子力委員会で26回目の延長を決定した折に、傍聴席から「今まで25回も延長しているのでしょうか」と私が訴えると、増田社長が委員からの指摘と誤解して「はい、申し訳ありません」と回答されたことを思い出します。またまた延期です。確かに経産省も「六ヶ所再処理工場・MOX燃料工場の竣工を官民の総力で成し遂げるべく、…」と書いていますが、皆さんは実現性を信じているのですか？ 皆さんは、30年かかって30回近く延長してアクティブ試験で大量の悪性核物質を排出した装置を稼働できると考えるのですか？ 民間企業に居た私から見て想像を絶する愚策です。一人ひとりが「主体的」に考えていただきたいと思います。どうですか？

(2) 再稼働による核ごみの排出

前回、4月14日に柏崎刈羽からむつ小川原の低レベル方放射性廃棄物埋設センターに輸送されたドラム缶1800本について回答いただきました。原発が15年間稼働していなかったにも拘わらず、これだけの放射性廃棄物が出たことに驚きました。また、搬出実績が11万本、発電所固体廃棄物貯蔵庫に30万本相当のドラム缶と知り、原発からの核のゴミの搬出の全体像を私たちが把握できていないことを知りました。

例えば、柏崎刈羽6号機を稼働すると、年間でどれだけの核のゴミを排出するのか、改めてなるべく分かり易く教えていただけますか。

(3) 福島第一原発の核ごみ

また、柏崎刈羽から排出する核のゴミと比較すると、今現在イチエフにあるとされる核のゴミはどれだけののでしょうか？ 例えば、7月1日時点のイチエフについて、1号機:392体(プール内)、汚染水920トン、2号機:601体、1190トン、3号機:無し、1200トン、4号機:無し、10トン(東京新聞7月6日)とありますが、この数字との関連もお教え願います。また、デブリ取り出し0.数gの報道がありますが、イチエフに残っているデブリは総量の97%と聞きました。そのとおりですか？

質問１－５ 汚染水海洋投棄（「海洋放出」）と汚染土

(1) 汚染水海洋投棄（「海洋放出」）

今（7月9日）実施中の放出は第何回目ですか？

ロンドン条約に違反していませんか？ 国連海洋法条約に違反していませんか？

水産資源保護法に違反していませんか？

福島県水産課に尋ねたところ、モニタリングしているが、放射性物質について厳密には見ていないそうでした。

今までの放出をどう総括されていますか？

(2) 福島シイタケ原木の問題

7月3日に次が報道されました（東京新聞）。

＜シイタケ育む「原木」をダメにされた上に…政府の対応に福島県森連が不信感 原発事故の追加賠償を巡り 2026年7月3日 06時00分

東京電力福島第1原発事故に伴うシイタケの原木の追加賠償を巡り、経済産業省が東京電力の説明をうのみにして虚偽の資料を作り国会議員に示していたことが発覚し、福島県森林組合連合会（県森連）が不信感を強めている。県森連が東京電力に追加賠償を求めてきたが東京電力は応じていない中で、経産省は、県森連が東京電力に一定の理解を示しているとする虚偽の内容を記していた。経産省からの聞き取りがなかったという県森連は「国や東京電力は、事故が終わっていると思っている」と憤る。＞

経緯を説明願います。また、今後どう対応するのか教えてください。

なお、菌類の放射能汚染は、どれだけ今も残っていると認識されていますか？ 確認させてください。

(3) 汚染土壌の処理について

環境省が進めているのだと思いますが、今どういう状況ですか？

福島には、放射能汚染土を他の地域に拡散することに反対と訴える方がいます。どう思いますか？

質問１－６ 福島の声、私たちの声を聞いてください

（田口直美）

石棺は嫌だ。

フクシマは日本の里山、ふるさと、なのに自ら被ばくして住めない場所にしたトーデンとクニは許せない、そのまま返せ。

いつになったら福島の森でテント張って木の実や山菜採ってキャンプできますかって。

土埃を気にせず大地にすりすり寝転がれますかって。

唯一の被爆国が、今度は自分で被ばくして、隠ぺいして、許せない。

福島の人のことを思うのとは別に、日本に住む人間として、自然を愛する人間として、山や海や土地を無限大に汚したトーデンとクニは許せない、そのまま返せ。

質問２ 【日本原電資金支援】

質問２－１ 日本原電への資金支援を止めて

東電が赤字であるにも拘わらず、日本原電に資金支援する理由が全く分かりません。

柏崎刈羽6号が稼働して再エネの出力制御（抑制）をしている状態であるにも拘わらず、東海第二の稼働とその電力を期待する理由はどこにあるのですか？ 直ちにやめていただきたい。

質問３ 柏崎刈羽原発を止めよ

質問３－１ 6号機再稼働の強行は無謀

柏崎刈羽6号機の再稼働を開始して数カ月経ちました。何らかの異常現象は発生していませんか。

日本列島で頻発する地震による影響は受けていませんか？

質問３－２ 中部電力の基準地震動策定に係る不正行為

本年の年初に明らかになった中部電力の浜岡原発の基準地震動に係わる申請書の「悪意の」不正にも拘らず、経産省も原子力規制委員会も同じ「原子力ムラ」と思わせる対応しかしていません。

- 1 公表の数年前から内部告発で中部電力が知っていた。
- 2 昨年2月に知った原子力規制委員会は昨年中は公表せず柏崎刈羽や泊の審査に合格を与えた。
- 3 不正公表後も「騙されていた？」と言いながら、山中規制委員長は今や社会で常識の「水平展開」をかたくなに拒否している。
- 4 監督官庁である経産省は悪意の中部電力を指導するのみで何ら中部電力に処分を与えていない。
- 5 コンサルタントとやり取りして会社ぐるみで悪意の不正を起こし経産省と規制委とを騙した中部電力は6月25日の株主総会で勝野哲会長と林欣吾社長の再任を認めた、トップが責任を免れた。

以上から、私たちは、やはり経産省も規制委も電力会社も一緒になって私たちを騙しているのではないかと思います。過去に事故隠しを頻繁に実施していた東電は以上についてどう考えられますか。

質問３－３ 能登半島地震後の耐震評価

(1)能登半島地震後の地震本部の長期評価を受けて、北陸電力が志賀原発の基準津波の見直しを行いました。

<北陸電、志賀原発「推定活断層」の追加調査に着手 断層連動も見直し> 2026年4月3日 19時15分(朝日新聞)

柏崎刈羽の基準津波も見直すべきではありませんか？

(2)地震本部で検討中の<佐渡ヶ島・新潟付近の長期評価について>新知見が新たに得られたら、柏崎刈羽が稼働していても一旦止めて再評価する様に強く要望します。

質問３－４ ドローン対策

原子力規制委員会が原発へのドローン対策を義務化した(原子力規制委、原発へのドローン飛来検知を義務化へ…海外では攻撃に使われた事例 2026/03/18 21:25)

<https://www.yomiuri.co.jp/science/20260318-GYT1T00461/>)ことについて、前回に警戒内容、求められる措置、追加的な対策、費用について、セキュリティの観点から回答を差し控えられました。ドローン対策・ミサイルに対して自衛隊幹部が「とても守り切れません」と話しています。東電が管理する各原子力施設についていつまでにどう対策するつもりなのか明らかにしてください。

以上